

2015.03.16-1

上江津湖のクロツラヘラサギ、オオジュリン

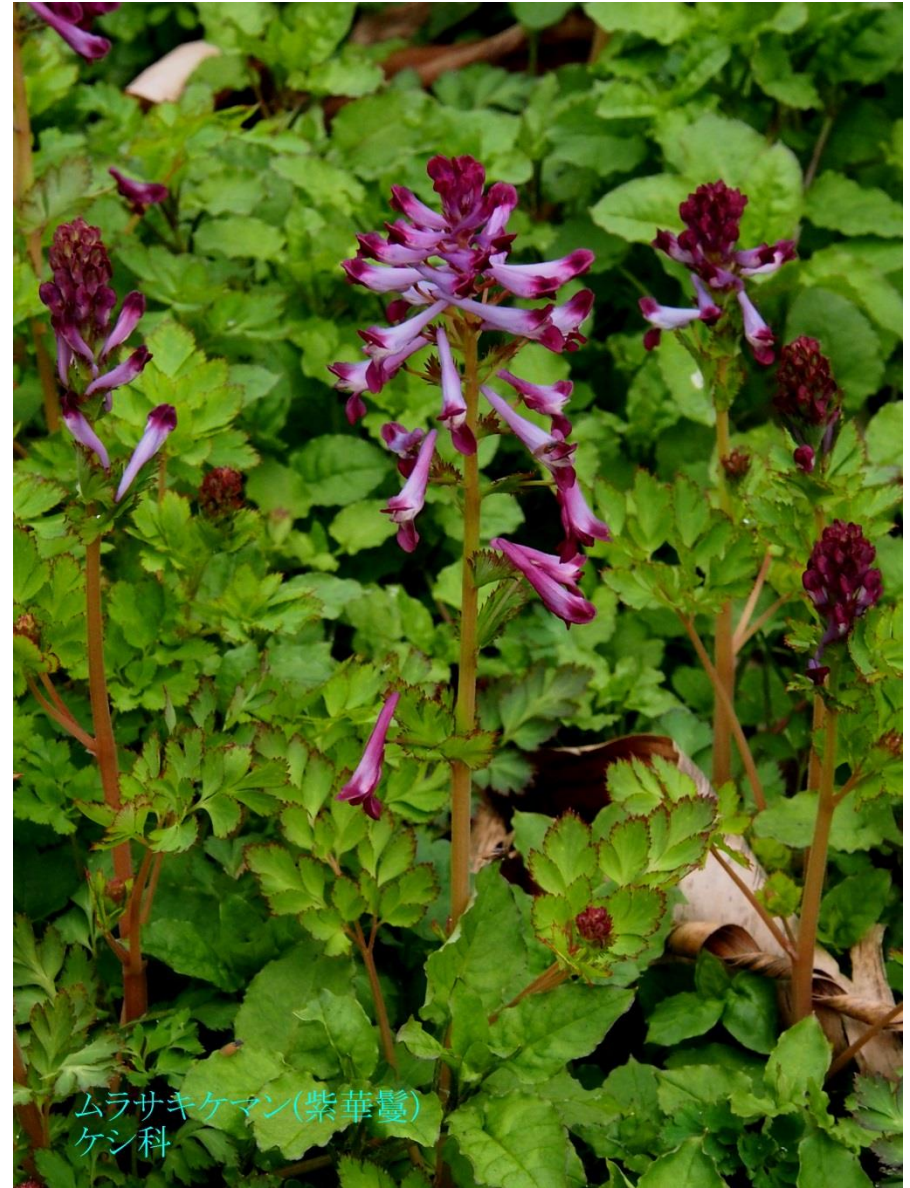
金峰山665m





シロバナタンポポ(白花蒲公英) キク科

日本全国に分布し、国外では中国から知られる。
木陰などの直射日光の当たらない場所に生育する。





キラソウ(金瘡草) シソ科



ミドリハコベ(緑繁縷) ナデシコ科
別名:ハコベ(繁縷)

和名は冬季に飛来した際に聞こえた鳴き声が夏季になると聞こえなくなる
(口をつぐんでいると考えられた)ことに由来するという説がある。



ツグミ(鶉) ヒタキ科 L=24cm

チベットから中国東北部、沿海州、バイカル湖周辺で繁殖し、
非繁殖期は日本、中国南部、インドシナ半島北部への渡りをおこない越冬する。



ジョウビタキ(尉鷓)オス ヒタキ科 L=14cm

東アジアにのみ生息し、全世界に約2,000羽しかいない世界的な絶滅危惧種で、IUCNのレッドリストでは絶滅危惧種 (Endangered)、環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧 I A類に指定されています。



クロツラヘラサギ(黒面篋鷺) トキ科 L=77cm

10月下旬頃から越冬地への渡りを開始する。そして3月下旬ごろまで越冬地で過ごした後、4月初旬頃から繁殖地への渡りを開始する。



クロツラヘラサギ(黒面篋鷺)
トキ科 L=77cm

干潟などでへら状のくちばしを左右に振りながら採食する。主な餌生物は魚類(ボラ・ハゼ・シラウオ・等)や甲殻類(カニ・エビ・アミ・等)、剣尾類(カブトガニの幼生～亜成体)など



クロツラヘラサギ(黒面篋鷺) トキ科 L=77cm

食性は雑食で、種子、昆虫類等を食べる。アシ等の茎に縦に止まり、葉の鞘を剥がし中にある昆虫類を捕食する。



オオジュリン(大寿林) ホオジロ科 L=16cm

雌雄同色。目の周りの白い輪が特徴であり、名前の由来ともなっている(なおメジロ科に属する鳥は英名でも“[White-eye](#)”と呼ばれ、また中国語名では「[繡眼鳥](#)」と呼ばれ、やはり名前の由来となっている)。[室町時代](#)からメジロの名で知られている。



メジロ(目白) メジロ科 L=12cm

足の指が黄色いことと、夏羽では頭に2本の長い冠羽が現れること、背の飾り羽は先が巻き上がることで、ダイサギやチュウサギと区別できる(ダイサギとチュウサギは巻き上がらない)。繁殖期のごく短い期間には足の指と目の先が赤くなる。



コサギ(小鷺) サギ科 L=61cm

食性は動物食で、日中は水辺を歩きながら水中や岩陰などに棲む昆虫類やクモ類などを捕えて食べる。また飛んでいる昆虫を捕まえるフライング・キャッチをする様子も観察される。



キセキレイ(黄鶺鴒) セキレイ科 L=20cm

オセアニアを除く全世界の熱帯、温帯に広く分布し、
中央アジアや沿海州、アメリカ東部などで繁殖したものは冬には暖地へ移動する。
日本では東日本では夏鳥で、西日本では留鳥となる。分布域が広く、
地域ごとにいくつかの亜種に分かれている。

バン(鶉) クイナ科 L=32cm



湖沼やその周辺にすみ、よく泳ぐ。水辺の草のしげみで繁殖。
冬は本州以南で越すものが多い。キュキューなどとバンより高い声で鳴く。

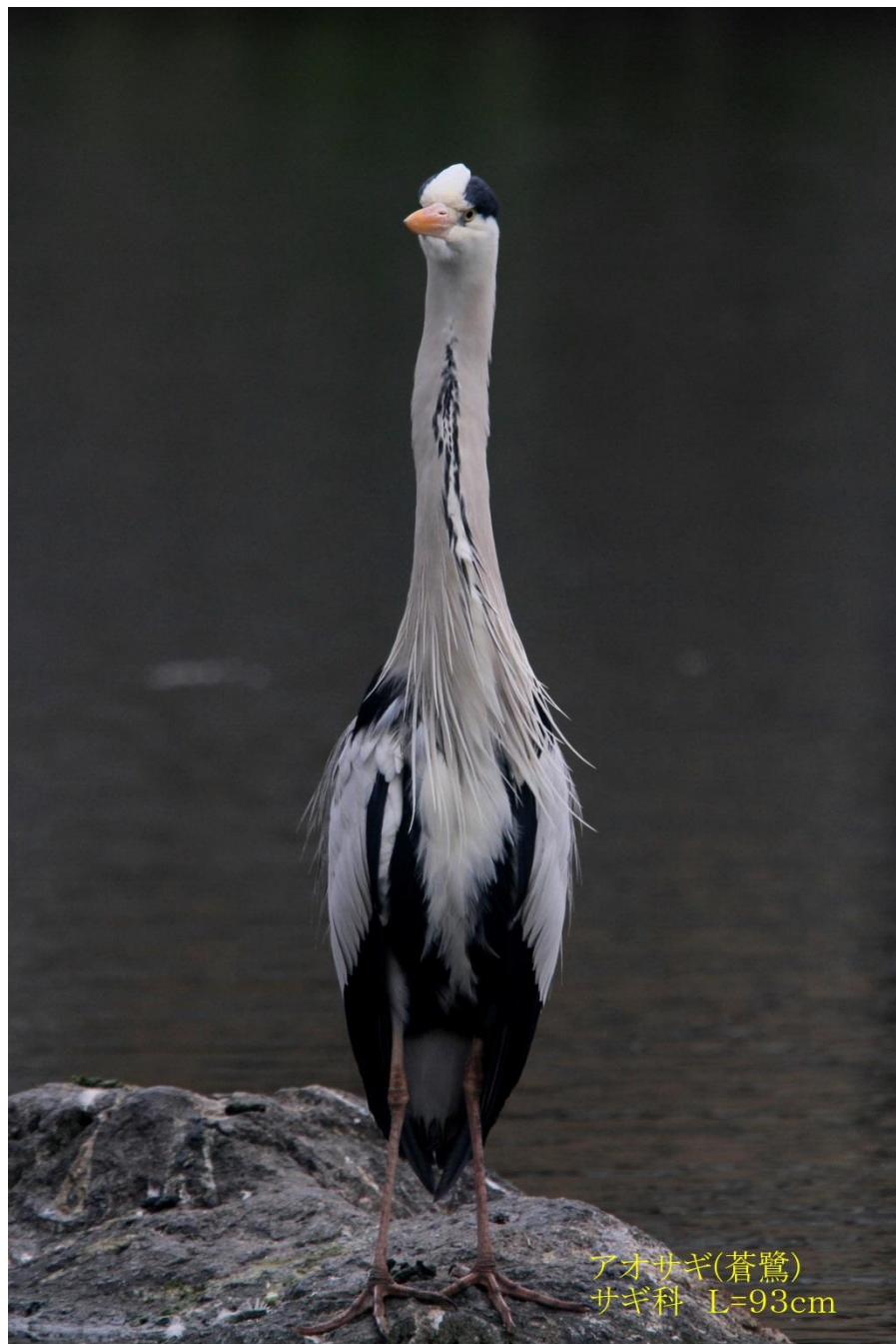


オオバン(大鵞) クイナ科 L=39cm

嘴は幅広く、和名の由来になっている。
英名shovelerもシャベル型の嘴に由来する。後肢は橙色。



ハシビロガモ(嘴広鴨)オス ガンカモ科 L=50cm



アオサギ(蒼鷺)
サギ科 L=93cm



アオサギ(蒼鷺)
サギ科 L=93cm

体長は25cmほどで、[ヒヨドリ](#)よりわずかに小さい。[ツグミ類](#)らしく嘴と脚がよく発達した体型をしている。ほぼ全身が灰褐色で、[和名](#)の通り腹部が白っぽい。



シロハラ(白腹) ツグミ科 L=25cm

水辺に生息する小鳥で、鮮やかな水色の体色と長いくちばしが特徴で、ヒスイ、青い宝石、古くはソニドリ(翠鳥、鳩)と呼ばれることもある。



カワセミ(翡翠)メス カワセミ科 L=17cm